

- **VisualC++
2005以前で
動作させる場合**
- **Quick Cライブラリ**
- **Turbo Cライブラリ**
- **PC-98用ライブラリ
(mglib.h)**

VisualC++2005 以前で動作させる場合

本書プログラムを Visual C++2005 以前にて動作させる場合、以下の点に注意すれば、そのまま動作させることができます。

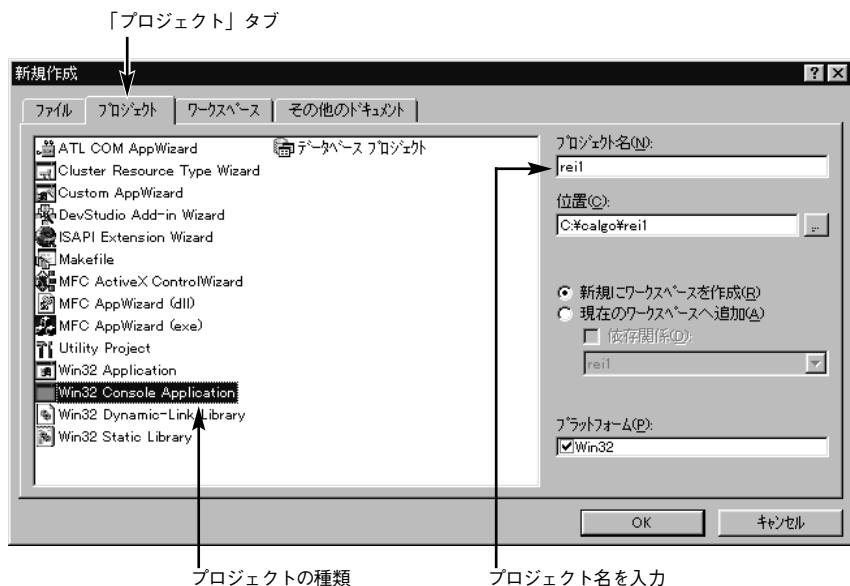
この附録の内容は第2版改訂時の附録の内容を一部変更したものです。

1. グラフィックスを扱わないプログラム

Visual C++ のプロジェクトとして「Win32 Console Application」を選択すると、MS-DOS プロンプト（コンソール）上で動作する C 言語アプリケーションを作ることができます。

本書の例題1を Visual C++ の「Win32 Console Application」として作成する手順を以下に示します。

①【ファイル(F)】－【新規作成(N)】メニューで開くダイアログの【プロジェクト】タブを選択し、「Win32 Console Application」を選択し、プロジェクト名に「rei1」と入力する。

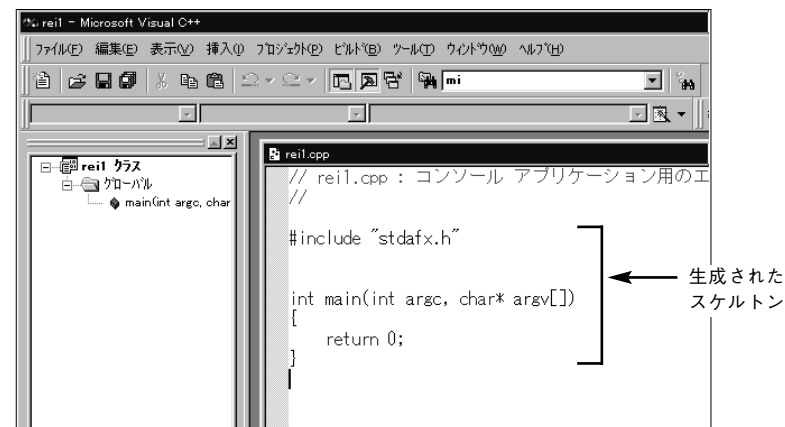


②アプリケーションの種類を【単純アプリケーション(S)】にする。



③スケルトンの生成

①, ②の設定で以下のようなスケルトン（骨格）が生成されます。



【注】 UNIX, Windows などのマルチタスク OS では、プログラムの終了で OS にエラー情報などの戻り値を返すようにするため、main 関数の型を「int」とし、「return 0;」で OS に戻り値を返します。通常、戻り値の意味は 0 なら正常終了、非 0 ならエラーを表します。

④プログラムの記述

③で作成されたスケルトンにプログラム本体を記述します。

プログラム

```
// rei1.cpp : コンソール アプリケーション用のエントリ ポイントの定義
//

#include "stdafx.h"

#include <stdio.h>

long combi(int,int);

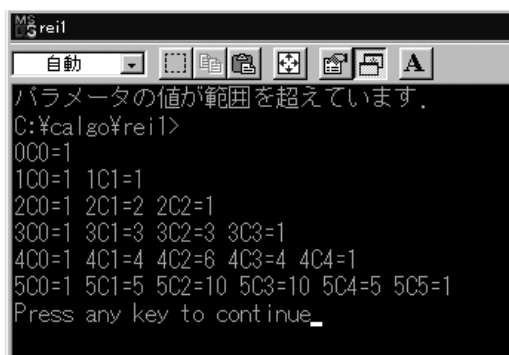
int main(int argc, char* argv[])
{
    int n,r;
    for (n=0;n<=5;n++){
        for (r=0;r<=n;r++){
            printf("%dC%d=%ld ",n,r,combi(n,r));
            printf("%n");
        }
    }
    return 0;
}

long combi(int n,int r)
{
    int i;
    long p=1;

    for (i=1;i<=r;i++){
        p=p*(n-i+1)/i;
    }
    return p;
}
```

ユーザーが記述したプログラム

⑤ [ビルド(B)] - [実行] メニューで実行



【注意点】

1部バージョンで次のような不具合がある場合があります。

◎ scanf に ^Z を入力するプログラム

データ終わりの通知

scanf ("%s",...) の %s 書式でデータの入力を行っている場合のデータ終了マークは ^Z を2回続けます。 gets を用いれば ^Z は1回で良いです。

改行処理

scanf に ^Z を入力し、ループから抜け、その直後にコンソール出力を行う形式のプログラムは、コンソール出力の前に、 printf ("%n"); を行い改行して下さい。

改行を行っておかないと、最初の行が表示されません。

たとえば、例題25のプログラムは次のようになります。

```
int main(int argc, char* argv[])
{
    int n;
    char a[12],b[12];
    printf("名前 電話番号¥n");
    while (scanf("%s %s",a,b)!=EOF){ ← ^Z^Zで終了
        n=hash(a);
        strcpy(dat[n].name,a);
        strcpy(dat[n].telnum,b);
    }
    rewind(stdin);
    printf("%n"); ← ここに改行コードを記述
    printf("検索するデータを入力してください¥n");
    while (scanf("%s",a)!=EOF){
        n=hash(a);
        printf("%15s%15s¥n",dat[n].name,dat[n].telnum);
    }
    return 0;
}
```

該当プログラム

Rei25, Dr25, Rei34, Dr34_1, Dr34_2, Rei35, Dr35_1, Dr35_2, Rei36, Dr36, Rei37, Dr37, Rei40, Dr40, Rei41, Dr41, Dr43, Rei44, Rei45, Rei46, Dr46, Rei47, Dr47, Rei48, Dr48_1, Dr48_2

◎日本語入力

Visual C++の「Win32 Console Application」において、windows95などの一部環境でコンソールから日本語入力できない場合があります。

2. グラフィックスを扱うプログラム

Windowsでグラフィックスを行うにはMFC (Microsoft Foundation Class) を利用するのが最も簡単です。

しかし、MFCを使う場合はクラスの知識が必要になります。そこで、本書のプログラムをクラスを意識せずにそのままVisual C++のMFプロジェクト上で動作させるためのmfcglib.hを作成しました。

このmfcglib.hをVisual C++のIncludeフォルダに置いて下さい。

●mfcglib.h (VisualC++ MFCアプリケーション版)

```
/*
 * -----
 *      基本グラフィックスライブラリ
 *      VisualC++, Visual C++ 2005/2008
 *      MFC MFCアプリケーション版
 * -----
 */
#include <math.h>

CDC* gpDC;          /* デバイスコンテキスト */
CPen mypen(PS_SOLID,1,RGB(0,0,255)); /* 描画ペン */

double WX1,WY1,WX2,WY2, /* ワールド座標 */
       VX1,VY1,VX2,VY2  /* ビュー座標 */
       FACTX,FACTY,      /* スケール */
       ANGLE,            /* 現在角 */
       LPX,LPY;          /* 現在位置 */

void window(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
    WX1=x1; WY1=y1; WX2=x2; WY2=y2;
    FACTX=(VX2-VX1)/(WX2-WX1);
    FACTY=(VY2-VY1)/(WY2-WY1);
}

void view(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
    CRgn clip; /* クリップ領域の指定 */
    clip.CreateRectRgn((int)x1,(int)y1,(int)x2+1,(int)y2+1);
    gpDC->SelectObject(clip);
    VX1=x1; VY1=y1; VX2=x2; VY2=y2;
```

```
    FACTX=(VX2-VX1)/(WX2-WX1);
    FACTY=(VY2-VY1)/(WY2-WY1);
}

void Ginit(CDC* p)
{
    gpDC=p;
    gpDC->SetMapMode(MM_ANISOTROPIC);
    pDC->SelectObject(&mpen);
    // 後処理も行うなら各描画処理のところで以下のようにする
    // CPen* oldp=gpDC->SelectObject(&mpen);
    // 描画処理
    // gpDC->SelectObject(oldp);
    window(0,0,639,399);
    view(0,0,639,399);
}

void cls(void)
{
    CRect r;
    gpDC->GetClipBox(&r);
    gpDC->FillSolidRect(r,gpDC->GetBkColor());
}

void line(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
    int px1,py1,px2,py2;
    px1=(int)((x1-WX1)*FACTX+VX1);
    py1=(int)((y1-WY1)*FACTY+VY1);
    px2=(int)((x2-WX1)*FACTX+VX1);
    py2=(int)((y2-WY1)*FACTY+VY1);
    gpDC->MoveTo(px1,py1);
    gpDC->LineTo(px2,py2);
    LPX=x2;LPY=y2;
}

void pset(double x,double y)
{
    int px,py;
    px=(int)((x-WX1)*FACTX);
    py=(int)((y-WY1)*FACTY);
    gpDC->SetPixel(px,py,RGB(0,0,255));
    LPX=x;LPY=y;
}

void move(double l)
{
    double x,y,rd=3.1415927/180;
    x=l*cos(rd*ANGLE);y=l*sin(rd*ANGLE);
    line(LPX,LPY,LPX+x,LPY+y);
}

void moveto(double x,double y)
{
    line(LPX,LPY,x,y);
}

void setpoint(double x,double y)
{
    LPX=x;LPY=y;
```

```

}

#define setangle(a) ANGLE=(double)(a)
#define turn(a) ANGLE=fmod(ANGLE+(a),360.0)

#define ginit() Ginit(pDC)
    
```

【注意点】

◎ ginit の位置

GinitはOnDraw イベントハンドラのpDC引数をマクロ展開しているので必ずOnDraw イベントハンドラの中に置かなければならない。

◎ 描画色

青に設定してあるが、変更したい場合は以下のRGB(0,0,255)の値を変える。

```
CPen mypen(PS_SOLID,1,RGB(0,0,255));
```

◎ window マクロ

引数の型はdouble型になっているが、整数の実引数を与えた場合に警告がでる場合は、window関数を例にすると以下のようなマクロwindowと実体関数Windowを作るとよい。

```

#define window(x1,y1,x2,y2) ㉞
    Window((double)(x1),(double)(y1),(double)(x2),(double)(y2))
void Window(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
}
    
```

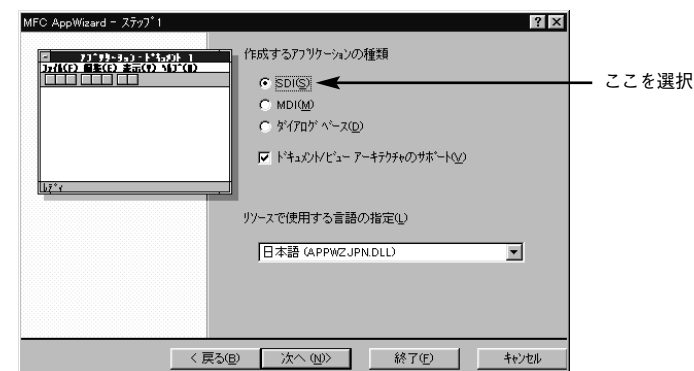
本書の例題56をVisual C++の「MFC Application」として作成する手順を以下に示します。

- ① [ファイル(F)] - [新規作成(N)] メニューで開くダイアログの [プロジェクト] タブを選択し、「MFC AppWizard (exe)」を選択し、プロジェクト名に「rei56」と入力する。



- ② アプリケーションの種類を [SDI(S)] にする。

SDIはSingle Document Interfaceの略で、単一のドキュメントしか扱えないプログラム（たとえばメモ帳のような）です。



③スケルトンの生成

①, ②の設定で以下のようなスケルトン（骨格）プログラムが生成されます。
プログラムは「CRei56View」の「OnDraw」関数内に記述します。



④プログラムの記述

③で作成されたスケルトンプログラムの「CRei56View」クラスの「OnDraw」関数の中にプログラム本体を記述します。

プログラム

```
#include "mfcglib.h"
void CRei56View::OnDraw(CDC* pDC)
{
    CRei56Doc* pDoc = GetDocument();
    ASSERT_VALID(pDoc);
    // TODO: この場所にネイティブ データ用の描画コードを追加します。
    int j,n;

    ginit();cls();

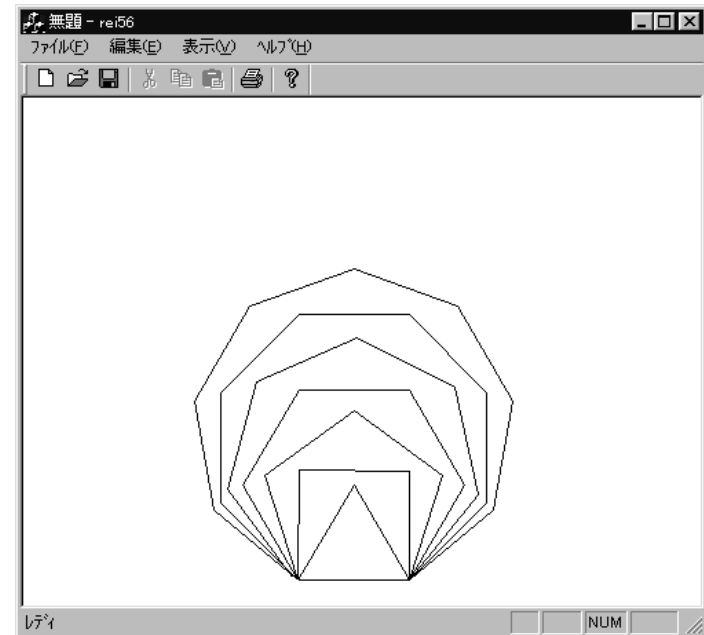
    for (n=3;n<=9;n++){
        setpoint(200,50);
        setangle(0);
        for (j=0;j<n;j++){
            move(80);
            turn(360/n);
        }
    }
}
```

← グラフィックスライブラリのインクルード

← ユーザ関数のある場合はここに記述

← main関数内のコードを記述

⑤【ビルド(B)】 - 【実行】メニューで実行



Quick C ライブラリ

Quick C のグラフィックス・ライブラリは **view** と **window** を **setviewport** と **setwindow** という関数でサポートしている。また、**setwindow** のオプションにより **y** 方向を逆転させることができる。ただし、この場合のウィンドウの指定は $(x1, -y2, x2, -y1)$ のように $y1$ と $y2$ の値を入れ換え、負号を逆にする必要がある。

プログラム

```
/*
 * -----
 *      基本グラフィックス・ライブラリ      *
 *      ( Q u i c k 版 )                    *
 * -----
 */

#include <graph.h>
#include <math.h>

#define cls() ㉞
    _clearscreen(_GCLEARSCREEN)
#define window(x1,y1,x2,y2) ㉞
    _setwindow(1, (double) (x1), -(double) (y2), (double)
    ㉞ (x2), -(double) (y1))
#define view(x1,y1,x2,y2) ㉞
    _setviewport((short) (x1), (short) (y1), (short) (x2),
    ㉞ (short) (y2))
#define line(x1,y1,x2,y2) ㉞
    Line((double) (x1), (double) (y1), (double) (x2),
    ㉞ (double) (y2))
#define pset(x,y) ㉞
    _setpixel_w((double) (x), (double) (y))
#define setpoint(x,y) ㉞
    SetPoint((double) (x), (double) (y))
#define setangle(a) ㉞
    ANGLE=(double) (a)
#define turn(a) ㉞
    ANGLE=fmod(ANGLE+(a), 360.0)
#define move(l) ㉞
    Move((double) (l))
#define moveto(x,y) ㉞
    MoveTo((double) (x), (double) (y))
#define moverel(x,y) ㉞
    MoveTo((double) (LPX+(x)), (double) (LPY+(y)))

double ANGLE,          /* 現在角 */
        LPX, LPY;      /* 現在位置 */
```

```
void ginit(void)
{
    _setvideomode(_98RESSCOLOR);
    window(0,0,639,399);
    view(0,0,639,399);
}
void Line(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
    _moveto_w(x1,y1); _lineto_w(x2,y2);
}
void Move(double l)
{
    double x,y,rd=3.14159/180;
    x=l*cos(rd*ANGLE); y=l*sin(rd*ANGLE);
    _lineto_w(LPX+x,LPY+y);
    LPX=LPX+x;LPY=LPY+y;
}
void MoveTo(double x,double y)
{
    _lineto_w(x,y);
    LPX=x; LPY=y;
}
void SetPoint(double x,double y)
{
    _moveto_w(x,y);
    LPX=x; LPY=y;
}
```

Turbo C ライブラリ

Turbo C のグラフィックス・ライブラリはwindowをサポートせず、描画座標は整数型である。

view機能はsetviewport関数によりサポートしており、これによりビューポートの原点への平行移動が行われるため、②式（本紙P.365）は

$$x' = (x - WX1) * FACTX$$

$$y' = (Y2 - y) * FACTY$$

となる。

プログラム

```
/*
 * -----
 *      基本グラフィックス・ライブラリ
 *      (Turbo C 対応版)
 * -----
 */
#include <stdio.h>
#include <graphics.h>
#include <process.h>
#include <math.h>

#define cls() ㉞
clearviewport()
#define pset(x,y) ㉞
Line((x),(y),(x),(y))
#define window(x1,y1,x2,y2) ㉞
Window((double)(x1),(double)(y1),(double)(x2),(double)
㉞(y2))
#define view(x1,y1,x2,y2) ㉞
View((int)(x1),(int)(y1),(int)(x2),(int)(y2))
#define setpoint(x,y) ㉞
SetPoint((double)(x),(double)(y))
#define setangle(a) ㉞
ANGLE=(double)(a)
#define turn(a) ㉞
ANGLE=fmod(ANGLE+(a),360.0)
#define move(l) ㉞
Move((double)(l))
#define moveto(x1,y1) ㉞
MoveTo((double)(x1),(double)(y1))
#define moverel(x,y) ㉞
MoveTo((double)(LPX+(x)),(double)(LPY+(y)))
```

```
double WX1,WY1,WX2,WY2, /* ワールド座標 */
VX1,VY1,VX2,VY2, /* ビュー座標 */
FACTX,FACTY, /* スケール */
ANGLE, /* 現在角 */
LPX,LPY, /* 現在位置 */
rd=3.1415927/180;

void ginit(void);
void View(int,int,int,int);
void Window(double,double,double,double);
void Line(double,double,double,double);

void ginit(void)
{
    int gerr,gmode,gdriver=DETECT;
    initgraph(&gdriver,&gmode,"a:㉞㉞");
    if ((gerr=graphresult())!=grOk){
        printf("Error : ㉞s㉞n",grapherrormsg(gerr));
        exit(1);
    }
    window(0,0,639,399);
    view(0,0,639,399);
}
void View(int x1,int y1,int x2,int y2)
{
    setviewport(x1,y1,x2,y2,1);
    VX1=(double)x1; VY1=(double)y1; VX2=(double)x2; VY2=
㉞(double)y2;
    FACTX=(VX2-VX1)/(WX2-WX1);
    FACTY=(VY2-VY1)/(WY2-WY1);
}
void Window(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
    WX1=x1; WY1=y1; WX2=x2; WY2=y2;
    FACTX=(VX2-VX1)/(WX2-WX1);
    FACTY=(VY2-VY1)/(WY2-WY1);
}
void Line(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
    int px1,py1,px2,py2;
    px1=(int)((x1-WX1)*FACTX);
    py1=(int)((WY2-y1)*FACTY);
    px2=(int)((x2-WX1)*FACTX);
    py2=(int)((WY2-y2)*FACTY);
    line(px1,py1,px2,py2);
    LPX=x2; LPY=y2;
}
void SetPoint(double lpx,double lpy)
{
    LPX=lpx; LPY=lpy;
}
void Move(double l)
{

```



```
double x,y;
x=l*cos(rd*ANGLE); y=l*sin(rd*ANGLE);
Line(LPX,LPY,LPX+x,LPY+y);
}
void MoveTo(double x,double y)
{
    Line(LPX,LPY,x,y);
}
#define line(x1,y1,x2,y2)¥
    Line((double)x1,(double)y1,(double)x2,(double)y2)
```

PC-98用ライブラリ(mglib.h)

●mglib.h

```
/*
-----
*   基本グラフィック・ライブラリ   *
*   ( P C - 9 8 グラフ L I O を利用 ) *
-----
*/

#include <stdio.h>
#include <process.h>
#include <math.h>
#include <dos.h>
#include <malloc.h>

#define window(x1,y1,x2,y2) ¥
    Window((double)(x1),(double)(y1),(double)(x2),
    ¥(double)(y2))
#define view(x1,y1,x2,y2) ¥
    View((int)(x1),(int)(y1),(int)(x2),(int)(y2))
#define line(x1,y1,x2,y2) ¥
    Line((double)(x1),(double)(y1),(double)(x2),
    ¥(double)(y2))
#define pset(x,y) ¥
    Pset((double)(x),(double)(y))
#define setpoint(x,y) ¥
    SetPoint((double)(x),(double)(y))
#define setangle(a) ¥
    ANGLE=(double)(a)
#define turn(a) ¥
    ANGLE=fmod(ANGLE+(a),360.0)
#define move(l) ¥
    Move((double)(l))
#define moveto(x,y) ¥
    MoveTo((double)(x),(double)(y))
#define moverel(x,y) ¥
    MoveTo((double)(LPX+(x)),(double)(LPY+(y)))

void seth(int,int);          /* 関数プロトタイプ宣言 */
void setw(int,int);
void lio(int);
void ginit(void);
void View(int,int,int,int);
void Window(double,double,double,double);
void screen(int,int,int,int);
void cls(void);
void Pset(double,double);
void Line(double,double,double,double);
void Move(double);
void SetPoint(double,double);
```

```
void MoveTo(double,double);

union REGS inregs,outregs; /* レジスタ共用体 */
struct SREGS segregs;
unsigned DSEG,GSEG;

double WX1,WY1,WX2,WY2, /* ワールド座標 */
        VX1,VY1,VX2,VY2, /* ビュー座標 */
        FACTX,FACTY, /* スケール */
        ANGLE, /* 現在角 */
        LPX,LPY, /* 現在位置 */
        rd=3.1415927/180;

unsigned IRET=0xcfcf; /* i r e tコード */

void setb(int adr,int dat) /* バイトデータの設定 */
{
    movedata(DSEG,(int)&dat,GSEG,adr,1);
}
void setw(int adr,int dat) /* ワードデータの設定 */
{
    movedata(DSEG,(int)&dat,GSEG,adr,2);
}
void lio(int intno) /* g l i o 割り込み */
{
    inregs.x.bx=0;
    segregs.ds=GSEG;
    int86x(intno,&inregs,&outregs,&segregs);
}
void ginit(void) /* グラフィック画面の初期化 */
{
    int i;
    unsigned WORK;
    char *gwork;
    if ((gwork=malloc(0x1400))==0){ /* g l i o 作業域 */
        printf("メモリ不足\n");
        exit(1);
    }
    segread(&segregs); DSEG=segregs.ds;
    GSEG=DSEG+(int)gwork/16; /* 作業域のセグメント値 */

    WORK=0xf990;
    for (i=0;i<16;i++){ /* g l i o ベクタの設定 */
        movedata(0xf990,6+i*4,0x0000,0xa0*4+i*4,2);
        movedata(DSEG,(int)&WORK,0x0000,0xa0*4+i*4+2,2);
    }
    movedata(0xf990,6+16*4,0x0000,0xce*4,2);
    WORK=(unsigned)&IRET;
    movedata(DSEG,(int)&WORK,0x0000,0xc5*4,2);
    movedata(DSEG,(int)&DSEG,0x0000,0xc5*4+2,2);
    lio(0xa0);
    screen(3,0,0,1);
}
```

```
void View(int x1,int y1,int x2,int y2)
{
    setw(0,x1); /* 左上 x 座標 */
    setw(2,399-y2); /* 左上 y 座標 */
    setw(4,x2); /* 右下 x 座標 */
    setw(6,399-y1); /* 右下 y 座標 */
    setb(8,0xff); /* 領域色 */
    setb(9,0xff); /* 境界色 */
    lio(0xa2);
    VX1=x1; VY1=399-y2; VX2=x2; VY2=399-y1;
    FACTX=(VX2-VX1)/(WX2-WX1);
    FACTY=(VY2-VY1)/(WY2-WY1);
}
void Window(double x1,double y1,double x2,double y2)
{
    WX1=x1; WY1=y1; WX2=x2; WY2=y2;
    FACTX=(VX2-VX1)/(WX2-WX1); /* x 方向の倍率 */
    FACTY=(VY2-VY1)/(WY2-WY1); /* y 方向の倍率 */
}
void screen(int a,int b,int c,int d)
{
    setb(0,a); /* 画面モード */
    setb(1,b); /* 画面スイッチ */
    setb(2,c); /* アクティブ */
    setb(3,d); /* デイスプレイ */
    lio(0xa1);
    WX1=WY1=VX1=VY1=0.0;
    WX2=VX2=639.0;
    if (a==0)
        WY2=VY2=199.0;
    else
        WY2=VY2=399.0;
    window(WX1,WY1,WX2,WY2);
    view(VX1,VY1,VX2,VY2);
}
void cls(void)
{
    printf("%c[2J",0x1b); /* テキスト画面 */
    lio(0xa5); /* グラフ画面 */
}
void Pset(double x,double y)
{
    setw(0,(int)((x-WX1)*FACTX+VX1)); /* x 座標 */
    setw(2,(int)((WY2-y)*FACTY+VY1)); /* y 座標 */
    setb(4,7); /* パレット番号 */
    lio(0xa6);
    LPX=x; LPY=y;
}
void Line(double x0,double y0,double x1,double y1)
{
    setw(0,(int)((x0-WX1)*FACTX+VX1)); /* 始点 */
    setw(2,(int)((WY2-y0)*FACTY+VY1));
    setw(4,(int)((x1-WX1)*FACTX+VX1)); /* 終点 */
}
```

```

    setw(6,(int)((WY2-y1)*FACTY+VY1));
    setb(8,7);                /* バレット番号 */
    setw(9,0);                /* 描画コード */
    lio(0xa7);
    LPX=x1; LPY=y1;
}

void Move(double l)           /* 指定長の直線 */
{
    double x,y;
    x=l*cos(rd*ANGLE); y=l*sin(rd*ANGLE);
    line(LPX,LPY,LPX+x,LPY+y);
}
void SetPoint(double lpx,double lpy) /* L P 位置の設定 */
{
    LPX=lpx; LPY=lpy;
}
void MoveTo(double x,double y) /* L P から指定点への直線 */
{
    line(LPX,LPY,x,y);
}

```